

誰もが出入りしやすい出入口って？

場所がわかりやすい

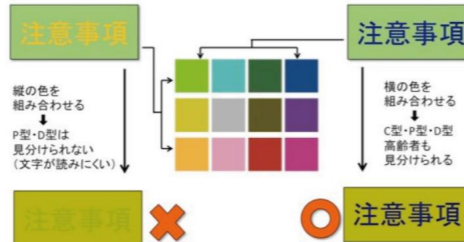
- » 室名の表示があると、目的の場所がわかる。
- » 壁と扉・取っ手の色や形にコントラストをつけることで、位置がわかりやすくなる。
- » ガラス窓があると、部屋の中の様子がわかる。

開け閉めがしやすく通りやすい

- » 力の弱い人でも使いやすい取っ手は、誰にとっても操作しやすい。
- » 自動でゆっくり閉まる扉は、急がずに安全に通行できる。
- » 段差や溝があると車いすの通行の妨げになるため、平らにする。

色のコントラストはなぜ重要？

色のコントラストとは、背景と文字・図形の色の差のことです。コントラストが十分に確保されていると、見やすくなり、情報を見つけやすくなります。さらに、カラーユニバーサルデザインを取り入れることで、色覚の多様性に配慮し、色だけに頼らず、形や文字を組み合わせ、より多くの人が内容を理解できるようになります。



多くの人に見分けやすい配色を選ぶ

色の明るさ(明度)や濃さ(彩度)を変える。

色が見分けにくい人でも情報が伝わる

文字ふちどりをつけたり、下に色の帯を入れたりして読みやすくする。

色の名前を使って気持ちやイメージを共有できる

色の違いに加え、形や文字、模様でも違いが分かるようにする。
例「明るい黄色をイメージしてください」

ひとやすみ ☕

出入口で「ここ困るな」って思うことは？

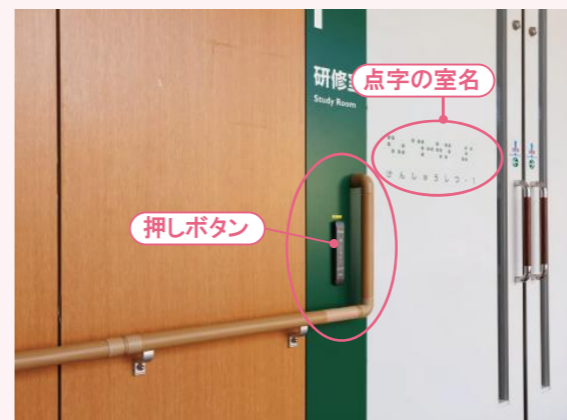
- 1 案内表示の文字が見えにくく、内容を理解できない。(視覚障がい者)
壁とドアの色が近いと、ドアの位置がわかりにくい。廊下との境がわかりづらい場合がある。(お年寄り、視覚障がい者)
- 2 案内表示が自然に視界に入らない位置にあると見落としやすい。
- 3 音でドア周辺の気配を感じることができず、不安。(聴覚障がい者)

こうして ↓ 解決！

使いやすさ
わかりやすさ

場所がわかりやすい

- 1 視覚に障がいのある人が位置を把握しやすいよう、案内表示や手すりに触ってわかる点字や浮き彫り文字を付け、案内表示の手前に点字ブロックを設置する。
- 2 視覚に障がいのある人でもわかりやすいよう、室名表示には大きな文字やピクトグラムを用い、ドアと壁、または取っ手とドアの色にコントラストをつける。
- 3 室名は背景と文字のコントラストを十分に取り、低い位置からも見やすい高さに表示する。
- 4 車いすの人、子ども、聴覚障がいのある人が反対側の様子を確認できるよう、小窓付きのドアとする。



各室の出入口を示す手すり

入口を見つけやすいように、入口横の壁の色を変えている。また、連続して設置された手すりの端部をL字形にして、ドアの開閉ボタンへ誘導している。



分かりやすさに配慮した出入口

部屋番号を見つけやすいよう、照明を当てるとともに、部屋前の手すりの近くには浮き出し文字を付けている。また、出入口をわかりやすくするため、各室の出入口付近の床の色を変えている。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計 / 9. 利用居室の出入口 P95 ~



入口を通るのが大変だったことは？

- 1 力が足りず、強く握ったり回したりする操作がむずかしい。
- 2 通り抜ける前にドアが閉まってしまう、挟まれてしまった。
- 3 狭い場所で無理に動かそうとして、壁やドアにぶつかってしまった。
- 4 ガラス戸に気づかず、ぶつかってしまうことがある。

こうして ↓ 解決！

使いやすさ
負担軽減
ゆとりある空間

開け閉めしやすく通りやすい

- 1 取っ手は、握りやすい棒状のものや、力の弱い人でも使いやすいレバーハンドル式・プッシュプルハンドル式などを採用する。
- 2 ドアは、車いすの人や上肢に障がいのある人に配慮し、引き戸または自閉式ドアとし、開閉速度を調整できるものとする。また、段差や溝をつくらないようにする。
- 3 車いすの人が安全に方向転換し、出入口を通行できるよう、十分な有効幅員とドア前後の転回スペースを確保する。
- 4 全面ガラス戸の場合は、気が付きやすいように衝突防止シールや横棧を設ける。

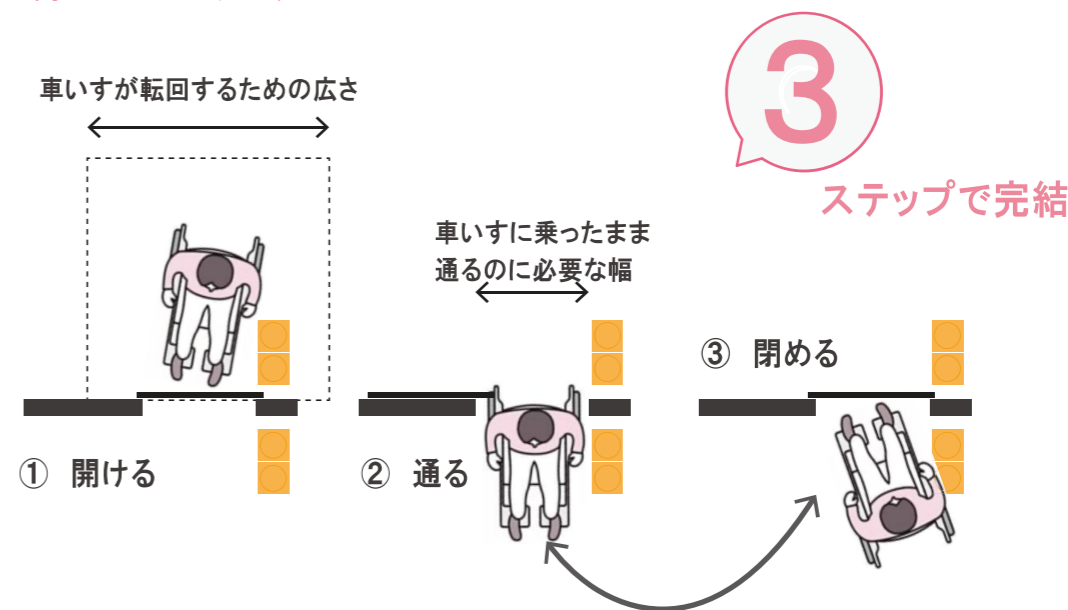


バーハンドル（棒状）の取っ手
握りやすく、色々な高さから操作できる。

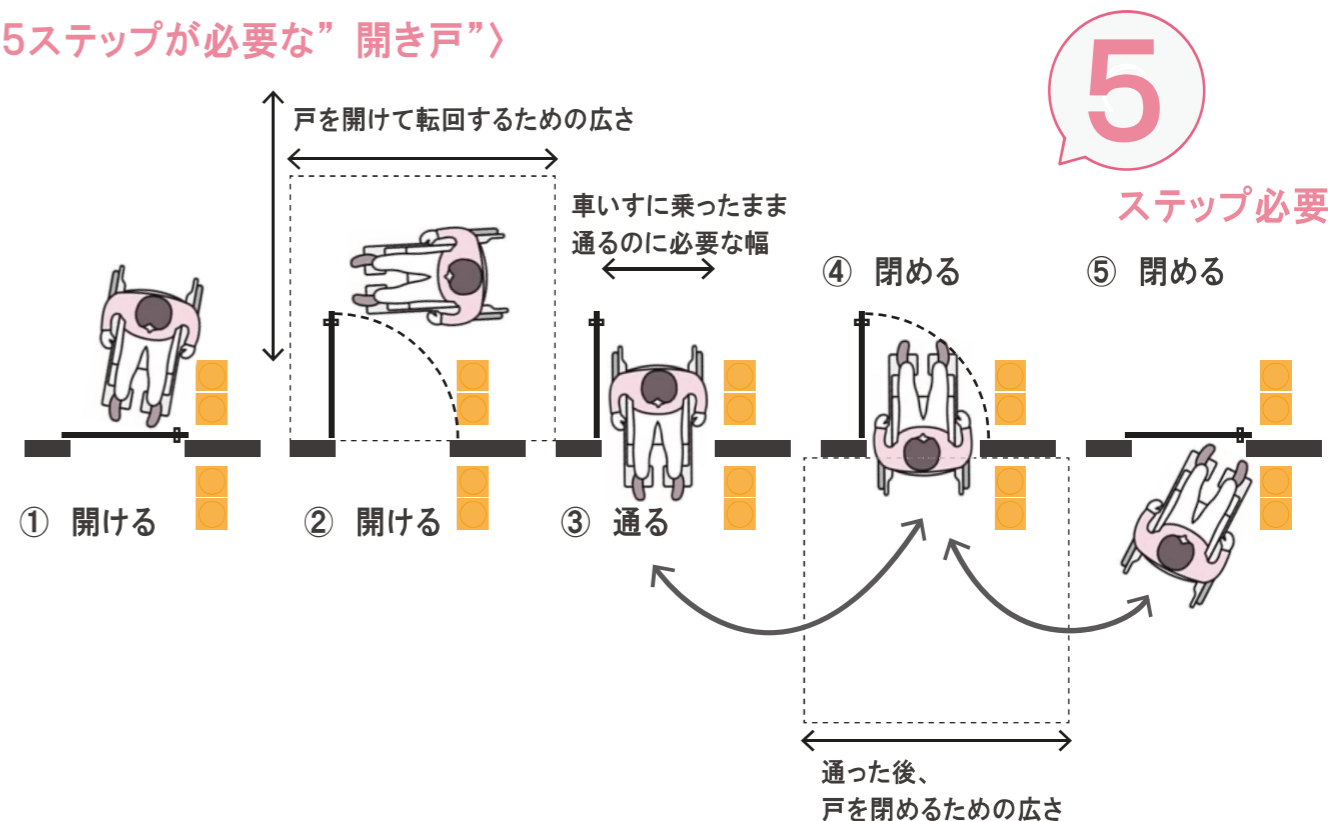


段差のない出入口と自動ドア
ドア前後に段差がなく、車いすの人がスムーズに通れる開閉方式の出入口。

〈3ステップで済む”引き戸”〉



〈5ステップが必要な”開き戸”〉



【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計 / 9. 利用居室の出入口 P95 ~



みんなが使いたくなるトイレって？

その人の事情にあわせて選べる

- 多様な利用者のニーズに合わせ、それぞれにふさわしいトイレを選択できる。
- 乳幼児連れ、車いすの人、排泄介助が必要な人、オストメイト、異性介助・同伴が必要な人、性的マイノリティなど様々な利用者のニーズがある。

待たない十分な数がある

- 想定される利用者数を把握し十分な数のトイレを設ける。
- 「車いす使用者用トイレ」だけに機能を集中させず、他の機能を適切に分散させることで、利用の偏りや混雑を防ぐことができる。

どんなトイレかわかりやすい

- 建物の出入口や主要な部屋から見える位置に、目に付きやすい案内があるとわかりやすい。
- 音声案内装置を設置すると、視覚に障がいのある人にもわかりやすい。
- トイレに関する情報を入手しやすい環境をつくる。

「気になる！」トイレ情報をしっかり公開しましょう。

洋式・和式の別、車いす対応トイレ、オストメイト対応、介助スペース、大型ベッドやおむつ替えシートの有無など、トイレの情報をホームページに公開しましょう。「どんなトイレがあるかわからない」という不安は、外出を控える大きな要因です。高齢者、障がいのある方、小さな子どもを連れた保護者にとって、事前情報があるだけで安心して施設を利用できます。



赤ちゃんにミルクをあげたり、おむつ替えしたりするための専用の部屋。



性的マイノリティへの配慮



だれでも使える場所にあり、介助者が異性であっても一緒に入りやすい広いトイレ。

介助が必要な人への対応

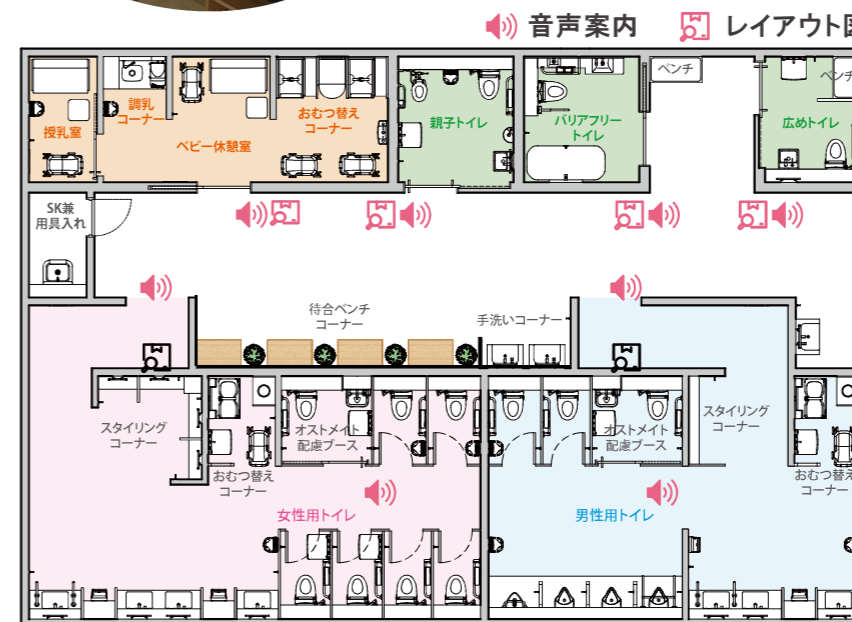


排泄の介助や着替えのための大型ベッド（折り畳み式）を設置。

オストメイトへの対応



オストメイトが、ストーマ装具の交換や洗浄などを行える設備のあるトイレ。



図面提供：株式会社 LIXIL ※図面はイメージです。

車いす使用者への対応



車いすの方が使いやすい空間設計と器具の高さを備えたユニバーサルトイレ。

小児専用トイレ



おむつ替えコーナー 家族で使える場所につくる。



【技術的基準 参考文献】
高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計 / 10. 便所・洗面所 P100 ~



はじめに

建築物 移動空間

建築物 利用空間

道路

市街地

当事者参画

トイレを使うとき、
何に困る？

- 1 トイレが狭く、車いすを使用したままではベッドを広げることができない。
- 2 赤ちゃんを抱えていると、上の子どもと一緒に入れるトイレがない。
- 3 手に障がいがある妻の介助をしたいが、女性トイレには入れないため介助できない。
- 4 オストメイトは外見ではわかりにくいので、車いす利用者用トイレを利用していただけるところ、車いすの人に注意を受けた。
- 5 見た目と性別が一致しないため、どちらのトイレを利用すればよいか迷ってしまい、安心してトイレに行くことができない。

こうして 解決！

公平性
柔軟性
使いやすさ

その人の事情にあわせて選べる

- 1 車いすやベビーカーを利用している人、付き添いや介助が必要な人のために、広いトイレを設ける。
- 2 男女それぞれの一般のトイレに、障がいの特性や個々の事情に応じて使える設備を設置したトイレを設ける。
- 3 利き手に応じて選択できるように、しつらえのバリエーションを増やす。

〈利用者のニーズに対応したトイレの違い〉

車いすの人



- 開け閉めしやすいドア
- スムーズに動ける広さ
- 便座の両側への手すり、大型ベット、荷物置台、フック、ゴミ箱
- 廊下へ非常用呼出ランプ

乳幼児連れ



- ベビーカーと一緒に入れる広さ
- 乳幼児用おむつ交換台
- 乳幼児椅子、着替え台
- 荷物置台、フック、ゴミ箱
- ドアの上に補助カギ

オストメイト



- ストーマ装具にたまった排泄物の処理やストーマ装具の交換ができる広さ
- 水洗器具（汚物流し）
- お湯の出るハンドシャワー
- 鏡、着替え台
- 荷物置台、フック

異性の介助
同伴利用
性的マイノリティ



- 男女が共用できる位置
- 大人が2人以上で入れる広さ
- 手すり、着替え台
- ドアの上に補助カギ

混雑時は他のトイレもご利用ください



▲利用者の状況にあわせて利用するトイレを選択できる。



▲トイレ入口近くの大型表示画面で空き室を知ることができる。



▲利用者の状況にあわせて選択できるように、対象をピクトグラムで表示。



▲設備や手すりや壁との間に色のコントラストをつけることで、手すりの視認性を高めている。



▲オストメイト、着替え台を設置した男女共用のトイレ

ホンネ

多機能トイレ＝オストメイトにとって必ずしも使いやすいトイレとは言いきれない。

とあるショッピングモールでオストメイトのお母さんと子供が多機能トイレを利用した際、排泄処理に時間を要したことで、外で待っていた車いす使用者から外見ではわからないオストメイトに「なんであなたがこのトイレを使うのか？」と大声で叱責を受けるという出来事があった、二人は泣きながら自宅に戻り、その後の生活に影響を与えるほど忘れられない事となった。この事例は、車いすの人もオストメイトのお母さんも悪くはないのです。設置側の障がい者の生活を知ろうとしないことがこのような事例を生むのです。

必要なのは障がいへの「正しい理解」!!

新設「道の駅」 高速道路 SA・PA に障がい別のトイレ設置が進んでいる。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計 / 10. 便所・洗面所 P100 ~



使いにくいなと思うところは？

- 1 車いすで利用できるトイレが1階の1カ所にしかなく、誰かが使用しているとしばらく待つ必要がある。
- 2 おむつ交換台が車いす使用者用トイレにしかないため、利用しにくい。
- 3 オストメイトが装着しているストーマ装具の清掃や交換には時間がかかる。
- 4 オストメイトはストーマ装具の清掃や交換に時間がかかるため利用時間への理解がないと「急がなければ」と不安になる。
- 5 バリアフリートイレの自動ドアは、一定時間経過後に自動で解錠されても、扉が自動で開かない設定にしてほしい。

こうして 解決！

柔軟性
ゆとりある空間

待たない十分な数がある

- 1 一つのトイレに機能を集約することなく、「車いす使用者用トイレ」、「オストメイト用設備を有するトイレ」及び「乳幼児用設備を有するトイレ」は分散して設ける。
- 2 施設全体における各階の用途（お年寄りの利用が多い用途、乳幼児連れの利用が多い用途等）の特性を踏まえて配置する。
- 3 「車いす使用者用トイレ」や「乳幼児用設備を有するトイレ」は、男女が共用できる位置に設ける。
- 4 カーテン等を内側に設置しておくことで、万が一解錠された場合でも利用者が恥ずかしい思いをせずに済み、プライバシーを確保することができる。

出入口の脇に自動開閉時間の表示があると安心できるね。



〈障がい毎の所要時間の目安〉

- 🕒 15分～30分：内部障がい者（オストメイト）
- 🕒 10分～20分：車いすの人・乳幼児連れ
上下肢障がい者
- 🕒 5分～10分：視覚障がい者・お年寄り
発達障がい者・ケガをして
いる人など

使うの
むずかしくない？

- 1 トイレの入り口がどこかわかりにくい。
- 2 トイレが広すぎて、どこに何があるのかわかりにくい。
- 3 『誰でもトイレ』という名前だと、誰でも自由に使えるトイレだと誤解されてしまうことがあるので、別の呼び方にしてほしい。
- 4 手すりやボタンの色が壁と似ていて、見つけにくい。
- 5 道具や機器がたくさんあって、どれを使えばいいのか分からなくなってしまう。

こうして 解決！

使いやすい
わかりやすさ

どんなトイレかわかりやすい

- 1 トイレの入口には、利用対象や設備の内容をピクトグラムなどで分かりやすく示し、名前は利用目的がきちんと伝わるようにする。
- 2 視覚に障がいのある人が使いやすいように、誘導用ブロックを敷いたり、トイレの入口に触知図や音声案内をつけたりする。また、設備のボタンなどは色やコントラストを工夫する。
- 3 同一施設内のトイレに設置する設備機器は、操作方法が統一されるように配慮する。
- 4 壁と似た色だとドアや設備が見つけにくくなるので、色のコントラストをはっきりさせる。



ピクトグラムと色により男女の別や機能をわかりやすく表示。遠くからでも区別しやすい。



バリアフリートイレの位置や設備内容を、ピクトグラムで誰にでもわかりやすく表示。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計 / 10. 便所・洗面所 P100 ~



みんなが気持ちよくすごせる客室って？

使いやすい 広さ・設備

- ≫ 車いす利用者用客室では、車いすのまま自由に移動できる十分な広さを確保し、座位で利用する際の設備の高さに配慮が必要。
- ≫ 内装や家具、デザインなどを一般の客室と同じように整えて、同質の宿泊等の機会が得られるようにする。
- ≫ 客室の鍵、扉の取っ手、水栓器具などは、操作しやすく誤操作しても安全でやり直しが可能なものを採用する。

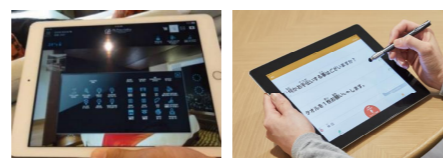
必要な情報を 得やすい

- ≫ テレビで建物案内や設備説明、避難経路を表示し、字幕放送にも対応することで情報が得やすくなる。
- ≫ 設備に加え、人によるサポートの充実で安心感が高まる。
- ≫ 緊急時の通報・情報伝達手段も確保することが必要。

スマートフォン・タブレット、テレビの活用

タブレット端末を活用し、障がい特性に応じたコミュニケーション方法を選択できます。ただし、視覚に障がいのある人はスマートフォンやタブレットを使いにくいいため、必要に応じて人的サポートが求められます。

- スマートフォンやタブレットを使い、客室からフロントへメールでの問い合わせや緊急連絡が可能
- 音声データを認識させ、家電操作や情報検索ができる AI スピーカーの設置
- テレビを利用して貸出備品を表示



客室内設備コントロール機能付き

なかなか使えなくて
困ったことある？

- 1 車いす利用時に通路が狭く、壁や家具にぶつかってストレスを感じる。
- 2 車いすのままではハンガーに手が届かず、衣類をベッド周りに置かざるを得ない。
- 3 操作が複雑だと不安になり、入浴を避けてしまうことがある。
- 4 スイッチが客室のあちこちに点在していて使いにくい。

こうして 解決！

使いやすさ
ゆとりある空間

使いやすい広さ・設備

- 1 客室出入口や室内ドアの幅、通路幅は、車いすでスムーズに通行・方向転換できる十分なスペースを設ける。
- 2 アイスコープ、インターホン、カギ、スイッチ・コンセント、棚、ハンガーパイプ・フックの高さは、車いすに乗ったまま手が届く高さに設ける。
シャワーヘッド掛けや水栓金具は、入浴用いすに座った状態で手が届く高さに設置、または高さ調整可能なものとする。浴槽には、立ち座りや姿勢保持のための手すりを設置する。
- 3 水栓器具は操作しやすく安全な自動温度調節付きレバー式とし、サーモスタットには適温位置が認識しやすい印をつける。



一箇所にまとめられたスイッチ

照明と電動カーテンの操作が可能で、スイッチに、文字と記号を併記した、ベッド脇のコントロールパネル。

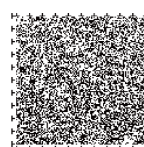


一体的にまとめられた浴室・洗面・トイレ

車いすに乗ったままでも利用しやすいよう、洗い場付き浴室に連続して洗面所兼トイレを設置。車いすの回転スペースも十分に確保。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/11.客室 P130～



はじめに
建築物 移動空間
建築物 利用空間
道路
市街地
当事者参画

はじめに
建築物 移動空間
建築物 利用空間
道路
市街地
当事者参画

「これ、どうするんだらう？」って思うこと

- 1 カードキーで入室したものの、電気の付け方が分からない。
- 2 部屋の設備や家具の配置を把握したい。
- 3 災害発生時にリアルタイムで情報を得られるか、適切に避難できるか不安。
- 4 今日の出来事をニュースで確認したい。

こうして ↓ 解決！

柔軟性
わかりやすさ

必要な情報を得やすい

- 1 聴覚に障がいを持つ人に配慮し、テレビは字幕放送の表示が可能なものとし、字幕表示が可能なリモコンを客室に備える。
- 2 お年寄りや障がいのある人など、操作に不安がある利用者には、部屋までの行き方、カードキーの使い方、照明・空調等の操作方法を職員が丁寧に案内する体制を整える。
- 3 火事や地震などのときに、どのように避難するのかを職員等が丁寧に説明してくれるしくみをつくる。
- 4 室内信号装置や非常時の情報等を受信して、光の点滅や振動により伝達する設備(光警報装置)をつける。



ホームページでユニバーサル仕様の客室を紹介

家具の配置や部屋の広さを平面図・写真・動画でわかりやすく掲載。障がいに合わせて対応できる備品や器具も紹介している。

〈車いすの人のための客室〉



▲車いすの人が室内を自由に移動でき、ベッドへ移乗しやすいよう設けられたベッド脇のスペース。



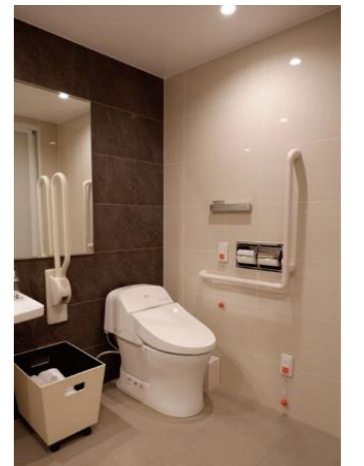
▲下部に車いすの人の膝が入るスペースを確保し、掴みやすいよう、天板裏に突起をつけたライティングデスク。



▲車いすの人や子どもが利用出来るよう、高さが異なるハンガーを設置。



▲車いすが十分に通れる幅の浴室の出入口。



▲車いすが転回できるスペースを確保し、L型と跳ね上げ式の手すりを設置している。



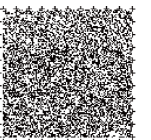
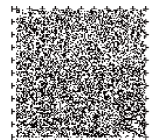
▲スイッチやドアモニターは、床から110cmの高さに統一し、解錠ボタン・ドアモニター・空調スイッチをまとめて配置する。



▲ミニバーキャビネットの足元は、車いすの人やお年寄りの利用にも配慮して、出し入れしやすい高さとなっている。(足元約40cmの空間)

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/11.客室 P130～



みんなが使いやすい浴室・シャワー室って？

使いやすい 広さ

- ≫ 車いすの人も円滑に利用できるよう、十分な広さがある。
- ≫ 介助するためのスペースも必要。
- ≫ 異性による介助にも配慮し、男女共用で使える個室タイプの浴室を設ける。

安全で 使いやすい

- ≫ 立ち座りや移動のための手すりが適切に設置されている。
- ≫ 水栓器具などは、操作がしやすく、間違っても安全でやり直しがきく。
- ≫ 浴室、シャワー室は転倒等の事故の危険の大きい場所であり、すべりにくい床の仕上げとする。
- ≫ 緊急時に安心できるよう、通報設備を設ける。

シャンプーボトルのユニバーサルデザイン

市販のシャンプーボトルには、触って簡単にコンディショナーボトルとの違いが分かるように、ボトルの側面などにギザギザがついています。

これは「シャンプーとリンスの容器が同じで紛らわしい。形を変えて欲しい！」という消費者の声をもとに開発されました。

シャンプーとリンスの容器の形状が似ている場合は、間違えて使わないよう、ボトルやキャップにわかりやすい印をつけましょう！



提供：花王株式会社

お風呂でヒヤッとしたことってある？

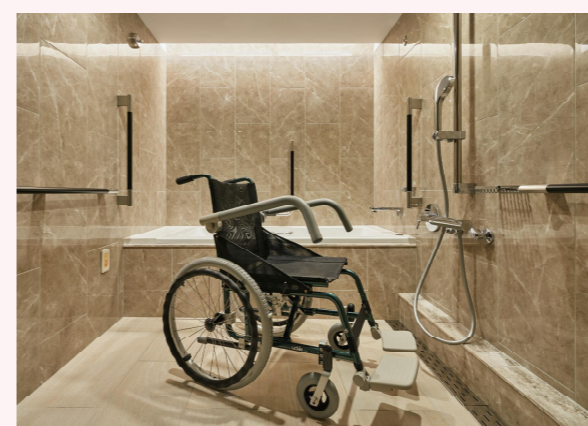
- 1 室内が狭いと、車いすに乗ったままでは動きにくくて、使うのが大変。
- 2 手を伸ばしたり、無理な姿勢になると転びそうで怖い。
- 3 水栓金具の温度調整がむずかしい。
- 4 手を伸ばさないと緊急ボタンを押せないが、具合が悪いとそんなことできない。

こうして ↓ 解決！

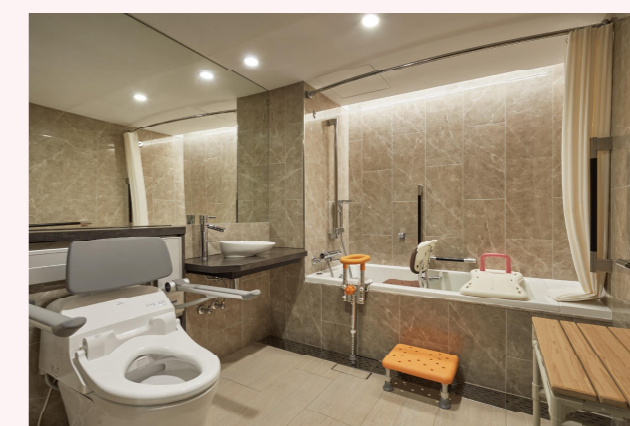
使いやすさ
わかりやすさ
ゆとりある空間

安全で使いやすい

- 1 出入口のドアの幅や室内は、車いすに乗ったまま自由に方向を変えたり、介助ができる十分なスペースを設ける。
- 2 シャワーヘッドかけや水栓金具は、入浴用いす等に座った状態で手が届く高さに取り付けるか、高さを調整できるものとし、姿勢保持等のための手すりを設ける。
- 3 水栓器具は、自動温度調節機能付きレバー式水栓など、操作が容易で安全な形状のものとする。また、サーモスタットには、適温が分かりやすいように目印を付ける。
- 4 緊急通報ボタンは、室内の車いすに乗ったままでも操作がしやすい高さ・位置に設置する。



介助ができる広いスペースや自立を支援する手すりを設置した浴室。



浴室とトイレを一体化し、移乗台及び浴槽出入りのための手すり、浴槽内での立ち座り・姿勢保持等のための手すりを設けた浴室。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/12.浴室・シャワー室・脱衣室・更衣室・楽屋P152～



みんなが使いやすい脱衣室・更衣室って？

使いやすい 広さ

- ≫ 車いすの人も円滑に利用できるよう、十分な広さがある。
- ≫ 介助するためのスペースも必要。
- ≫ 異性による介助にも配慮し、男女共用で使える部屋を設ける。

安全で 使いやすい

- ≫ 立ち座りや移動のための手すりが適切に設置されている。
- ≫ 上下に分かれた収納で高さを選べると、車いす使用者、お年寄りや子どもにも使いやすい。
- ≫ 緊急時に安心できるよう、通報設備を設ける。

過剰なスペックは、逆に使いにくい？

- 問題1 コストの増加**
設備や施設のコストが上昇し、運用や維持管理にも負担がかかる。
- 問題2 操作の複雑化**
多機能化により、利用者が迷いやすくなり、使いやすさ、分かりやすさの原則に反する場合がある。
- 問題3 利用者の混乱**
すべての人に対応しようとしすぎると、逆に特定の利用者にとって使いにくくなることもある。

ユニバーサルデザインは「誰もが使いやすい社会」を目指す考え方です。ただし、機能を増やしすぎるとかえって使いにくくなる場合があります。利用者のニーズをキチンと把握し、ニーズに合ったシンプルで公平、分かりやすい設計を心がけましょう。

ひとやすみ ☕

UDの効果を最大限に発揮するにはどうすればいい？



どうしたらいいか困ったことある？

- 1 出入口や室内、通路が狭いと、車いすに乗ったままでは動きにくくて、使うのが大変。
- 2 車いすに乗ったままではロッカーの奥まで手が届かない。
- 3 ロッカーやトイレの場所がどこにあるのか、見つけにくかったり、わかりにくかったりする。

こうして ↓ 解決！

わかりやすさ
ゆとりある空間

安全でつかいやすい

- 1 男女が共用できる脱衣室・更衣室内に、車いすの人が円滑に利用できる脱衣・更衣等のスペースを設ける。
- 2 出入口のドアの幅や室内は、車いすに乗ったまま自由に方向を変えたり、介助ができる十分なスペースを設ける。
- 3 収納棚やロッカーは、脱衣・更衣等のスペースの近くに設け、ハンガーパイプ・フックの高さは、車いすに乗ったまま手が届く高さとする。
- 4 脱衣のためのベンチを設け、みんなにわかりやすいように、壁・床の仕上げ材料は、ベンチと壁・床の色とコントラストをつける。



使いやすい更衣室等

ゆとりある広さ、車いす使用者の利用に配慮した高さのロッカーのある更衣室。



家族更衣室に設置したシャワー室

介助が必要な人や、車いすの人でも利用できるよう、着替えや作業のスペースを広めに確保している。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/12.浴室・シャワー室・脱衣室・更衣室・楽屋P152～



みんなが同じように楽しめる客席って？

客席まで みんな同じ 動線で行ける

» 誰もが同じルートを使えるようにすることで、「特別な経路」がなくなり、すべての人が同じように社会参加できる環境となる。

多様な客席の 種類と配置

» 車いすの人にとっても、複数の座席位置、価格帯の選択の幅があることが重要。
» サポートする人も一緒に楽しめるよう、スペースを確保する。

見やすく、 視線を 遮らない環境

» 前の人の頭越しに舞台やスクリーンをしっかりと見られること、後付けの機材などで視線が遮られない。
» 前の人が立って見ることがある客席では、見通しが確保できるような配慮が必要。

「おねがいカード」を知っていますか？



「おねがいカード」は、障がいのある人などが災害時や日常生活の中で困ったときに、周囲へ手助けを求めやすくするために作られたカードです。東日本大震災津波の教訓から、県内在住の約7万人の障がいのある方に配布されています。障がいのある人などが、困っていると感じたときは「どうしましたか？」と声をかけ、必要な支援につながる手助けをするよう心がけましょう。

みんなが同じルートで 参加できる？

- 1 通路が狭く通りにくいとストレスを感じ、施設への来場を諦めてしまうことがある。
- 2 文字の情報だけでは、どっちに行けばいいかわからない。
- 3 誘導表示が分かりにくいと、逆走する危険がある。
- 4 聴覚に障がいがある人が、目的地を理解しやすいよう、視覚的にわかる案内表示等がほしい。

こうして 解決！

わかりやすさ
負担軽減

客席までみんな同じ動線で行ける

- 1 通路は段差をなくし、十分な幅を確保したうえで、滑りにくい床材を使用し、分かりやすい案内表示を設置する。
- 2 案内表示は、年齢や国籍に関わらず行きたい場所に迷わず行けるよう、文字やピクトグラム、音声案内を組み合わせる。
- 3 出入口・案内所・通路には適切な照度を確保し、曲がり角などには順路を示す誘導表示板を配置する。
- 4 非常時の避難経路には、映像装置(デジタルサイネージ)、翻訳機能付き拡声器、フリップボードなどを整備する。



車いす使用者用客席、 客席から段差なしで舞台につながるルート

エントランスホール、ホワイエから客席まで、段差なくアクセスでき、車いす使用者用客席から段差なしで舞台上ることができるほか、楽屋にも舞台から段差なくアクセスできる。

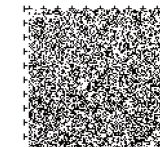
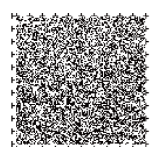


集団補聴設備の分散配置

席のバリエーションを確保するため、縦通路に平行に配置されている(南北どちらかの大型映像が見えることを確認)。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/13.劇場・遊技場等の客席 P162~



はじめに

建築物
移動空間

建築物
利用空間

道路

市街地

当事者参画

はじめに

建築物
移動空間

建築物
利用空間

道路

市街地

当事者参画

選べないって、
つらくない？

- 1 車いす使用者用客席が最前列にしかなく、スクリーンを見上げる形になり、体に負担がかかる。
- 2 車いすの人と介助者1名分のスペースしかなく、家族みんなで一緒に見ることができない。
- 3 座る場所や料金を選べず、自由に選択できない。
- 4 周囲への影響を気にして外出や鑑賞をためらってしまう。

こうして 解決！

公平性
柔軟性

多様な客席の種類と配置

- 1 車いす使用者用客席は、チケットの価格帯、客席の種別ごとに、偏ることのないようバランス良く、見る方向や距離の異なる複数個所に分散して設ける。
- 2 車いす使用者用客席の横に同伴者用の客席又はスペースを設ける。
- 3 大型車いすの人、補助犬利用者、乳幼児連れ、盲ろう者等、多様な利用者の利便性に配慮し、可動席スペースを設置する。
- 4 乳幼児連れ、知的障がいの人、発達障がいの人、精神障がいの人等の多様な利用者に配慮し、気がねなく観覧できる区画された客席（センサールーム等）を設ける。



さまざまな設備を表示した案内図

車いす使用者用客席、バリアフリートイレやキッズルーム授乳室、エレベーターやスロープ設置場所をピクトグラムでわかりやすく表示。



▲球場内を一周するコンコースに沿って設けられた車いす使用者用客席。



エレベーター乗り場に隣接

車いす使用者用客席

せっかく見に来たのに
見えない・・・

- 1 車いすだと目線が低いので、前の人が立ってしまうと、前の人の背中で視界が完全に遮られてしまう。
- 2 座った時の目線に手すりがある邪魔。
- 3 ステージが見えないと、他の観客が盛り上がりつつある中で、自分だけが楽しめない疎外感がある。

こうして 解決！

公平性
負担軽減

見やすく、視線を遮らない環境

- 1 車いす使用者用客席は、スポーツ観戦やコンサート等において前列の観客が立っている状況でも視界が遮られない段床の高さとする。
- 2 手すりは、格子やガラス等、見通しの確保に配慮した形状や材質とする。
- 3 聴覚に障がいのある人や視覚に障がいのある人のための客席には、文字情報を表示する小型ディスプレイ等や、演劇や映画等の字幕を表示したり、音声ガイドにより情報が得られる設備を設置する。

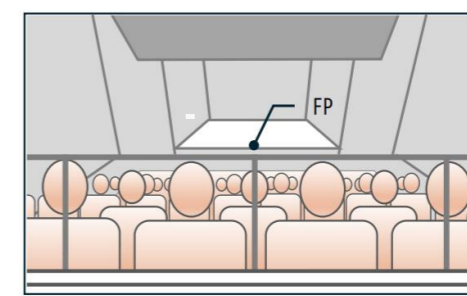


車いす使用者用客席

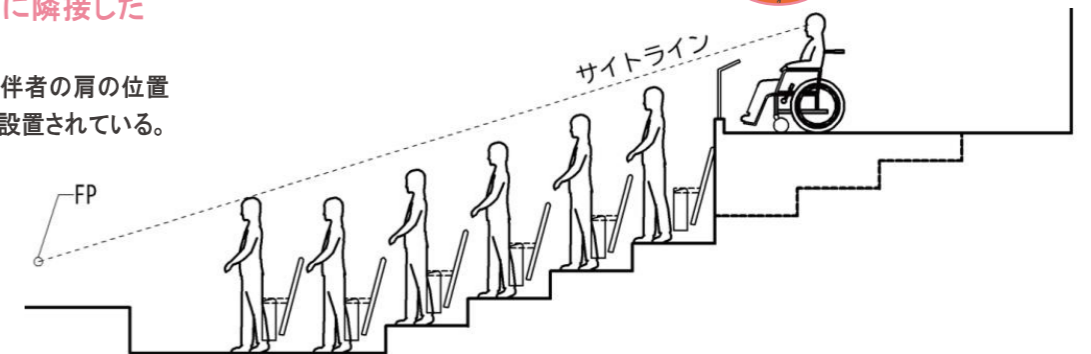
同伴者用客席

車いす使用者用客席に隣接した 同伴者席

車いす使用者用客席と同伴者の肩の位置が合うよう、横に隣接して設置されている。



ステージ全体が見えるか、手すりや機材が視線の邪魔になっていないかCG等を使った確認も大切だね。



【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/13.劇場・遊技場等の客席 P162～



みんなが楽しめるお店って？

入りやすい入口 通りやすい通路

- ≫ 自動の引き戸は誰でも入りやすい。
- ≫ 車いすに乗ったままでも通りやすい幅で、周囲に商品が積まれたりして通りづらくない。
- ≫ 休憩のためのスペースやベンチがあるとゆっくり楽しめる。

見やすく 届きやすい

- ≫ 棚やラックは、商品を手に取り易い、高さや奥行きとする。
- ≫ チラシやPOPなど、表示がわかりやすい。
- ≫ 試着室が広いと誰でも使いやすく、介助もしやすい。

座りやすい 座席

- ≫ 座席が固定式だけだと、自由に姿勢を変えることができない、車いすの人は座りにくい。またサポートがしづらい。

デフスペース (DeafSpace) の5つ空間原則

デフスペースとは、ろう者が生活の中で培ってきた空間認識（感覚）や行動様式、ろう文化を生かし、みんながより安心して使いやすく過ごせるよう工夫されたデザイン。

視覚性

- ・見通しがよい
- ・死角が少ない
- ・顔が見える

空間と近接

- ・手話が見やすい
- ・広めの通路
- ・話しやすい形

動線と 見つけやすさ

- ・場所が分かりやすい
- ・見通しのある動線

感覚

- ・まぶしくない明かり
- ・音や振動に気づきやすい工夫
- ・うるさすぎない空間

社会性

- ・集まりやすい広場
- ・輪になりやすい家具
- ・入りやすい雰囲気

留意点

- ・手話距離の確保：全身が見える1.2~1.8m
- ・通路幅：並んで手話しながら移動できる180cm以上
- ・照明：逆光を避け、顔の影が出ない配置
- ・座席配置：円形・U字で全員の顔を見渡せるように
- ・立ち位置誘導：案内表示や家具配置で自然と「向き合う」形に



ろう者の
経験を生かした
空間づくりが
大切だよ。



安心して
買い物したい。

- 1 出入口や通路に商品が積んであると、車いすやベビーカーでは通りにくい。
- 2 白杖で床面の障害物には気づけても、腰や胸の高さにある出っ張りには気づきにくく、出っ張った部分に顔や体をぶつける。
- 3 災害時や緊急時には、出っ張った物に気づかず転倒したり、避難の妨げになる。
- 4 店内の様子が見えないと、看板だけでは何の店かわからない。

こうして 解決！

わかりやすさ
安全性
ゆとりある空間

入りやすい入口、通りやすい通路

- 1 店舗の出入口に設けるインターホンの周囲には、車いすやベビーカーでも容易にアクセスできるよう、十分な空間を確保する。
- 2 出入口には自動ドアを設置し、段差をなくして十分な幅を確保するとともに、滑りにくい床材を使用し、わかりやすい案内表示を設ける。
- 3 通路に設ける設備機器・備品（消火器、棚等）は、壁から出っ張らず、視覚に障がいがある人の歩行の妨げにならないよう配慮する。
- 4 何の店か一目でわかるように、看板は文字と絵でデザインする。



会計カウンター

裏側には、出入口・エレベーターのインターホンに対応した受話器があり、必要に応じて従業員がサポートする。



ゆとりある通路

通路の有効幅は115cm程度と、車いす使用者が通行しやすい幅員を確保。

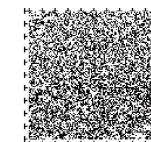
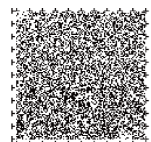


可動式の椅子席

可動式の椅子席となっており、テーブル・ついたても動かすことができる。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計 / 14. 店舗内部 P173 ~



商品を選ぶのが大変なのって、どんなとき？

- 1 高いところの棚に手が届かなくて、購入をあきらめることがある。
- 2 商品の値段がわかりやすいと、間違えて購入することが少なくなる。
- 3 車いすに乗ったまま棚の一番下の商品を取ろうとして、車いすから落ちそうになり怖い思いをした。

こうして 解決！

使いやすさ
わかりやすさ

見やすく、届きやすい

- 1 棚は、子どもや車いすの人も自分で選べるよう、高すぎず、低すぎない高さとする。
- 2 値札や説明は、目線の高さや国籍に関わらず、見やすい位置と色づかい、文字の大きさを表示する。
- 3 車いすの人が利用できる広めの試着室を設ける。
- 4 奥まで手を伸ばさなくても商品が取りやすいように、浅めの棚や傾斜棚とする。



▲十分に通過することができる通路幅



幅 120 cm



高さ 60 cm

▲誰もが手に届く高さの商品棚



幅 180 cm

▲対面で配置されたレジカウンター。

ホンネ

セルフレジで見かけたら声をかけて欲しい。

最近のスーパーやコンビニの会計はセルフレジが増えました。店舗によって様々なタイプの機械があって視覚障がい当事者は画面上のボタンをタッチすることも硬貨やお札を投入するのもおつりを取るのも一苦労です。セルフレジでの会計時には店員さんにサポートしていただきたいです。

柔軟性
使いやすさ

座りやすい座席

- 1 座席は、車いすの人がそのまま食事ができるよう、可動式の椅子席を基本とする。
- 2 可動式の椅子席等は、車いすの人と同伴者、又は2人以上の車いすの人が同時に利用できるものとする。
- 3 知的障がいの人、発達障がいの人、精神障がいの人等が落ち着いて食事ができる、また、子ども連れの方が安心して食事できるよう個室をつくる。
- 4 カウンター形式の飲食店の座席は、可能な限りローカウンター席をつくる。

商品名や値札等の表示

- 文字と背景色とのコントラストを確保
- 大きくわかりやすい文字
- 車いすの人も見やすい高さ配置



店舗内の通路・商品棚

- 車いすの人が選びやすく、手に取りやすい高さ、奥行きの商品棚
- 通路の端やレジ前に、車いすの人が転回できるスペースを確保



車いす使用者用トイレ

- 文字と背景色とのコントラストを確保
- 車いすの人も見やすい高さに配置



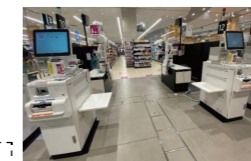
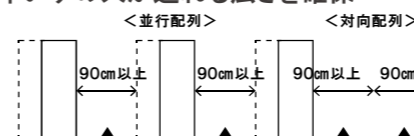
乳幼児用設備を有するトイレ

乳幼児用椅子、乳幼児おむつ交換台を設置
(車いす使用者用トイレ以外に設置)



会計・レジ

- 利用者から金額表示が見えるレジ
- 複数のレジカウンターがある場合には、車いすの人が通れる広さを確保

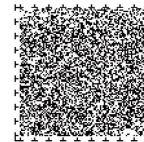


▲対向型レジカウンター

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計 / 14. 店舗内部 P173 ~





こんなベビー休憩室あったらいいな！

プライバシーを確保し安心して使える

- ≫ 区切られた空間にして、カーテンやついたて、鍵の付いた扉などでプライバシーを確保する。
- ≫ 管理者の目の届く位置にあると安心。

使いやすい家具やレイアウト

- ≫ 十分なスペース、様々な年齢の子どもに対応できるように多様な設備があるとよい。
- ≫ 環境に敏感な赤ちゃんへの音・光・空調の配慮も必要。(乳幼児の目に直接照明の光が入らない)

家族みんなが使える

- ≫ 哺乳瓶による授乳にも配慮。
- ≫ 家族や兄弟も一緒に使えるような工夫があると使いやすい。

赤ちゃんとお出かけは大荷物！

おむつ、着替え、ミルク（哺乳瓶・お湯）、タオル、ガーゼ、母子手帳、保険証、抱っこ紐…「もしも」に備え始めると、荷物はどんどん増えてしまいます。荷物を置いて、おむつやおしりふき、ビニール袋などをちゃんと揃えてから、落ちついておむつを交えられるよう、おむつ交換台の脇には棚が必要です。



おうちの人のカバンは赤ちゃんグッズでぎっしり

授乳・搾乳スペース

- ・ベビーカーのまま入れる広さが必要。

授乳するためのいす

- ・肘掛や背もたれのついた椅子や長椅子を置く。

おむつ交換台

- ・高さの違うものを複数設置する。

シンク

- ・ほ乳瓶や搾乳機を洗えるように設置する。



給湯器・手洗い

- ・ほ乳瓶を温めるポット
- ・おむつ交換の後の手洗いの場。

荷物置き台

- ・大きめバックがおけること。
- ・衣類を掛けるためのフックやハンガーも設置する。

仕切り

- ・授乳エリアへ他の人が入れないようにカギが掛けられるアコーディオンカーテン等を設置する。
- ・使用状況がわかるようにする。

ソファ

- ・離乳食を食べさせたり、おうちの人が人工乳を与えたりできるように設置する。

おむつ専用ゴミ箱

- ・使用済みのおむつを持ち歩かなくていいように設置する。



おむつ交換台 & 着替え台

着替え台 おむつ交換台

前後左右の人と干渉しない広めのスペース



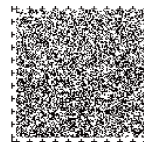
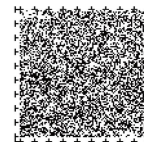
ベビー休憩室

← 落ち着いてくつろぐための目隠し

お家の人が一緒に利用できる広い空間

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計 / 15. ベビー休憩室 P184 ~



みんながすばやく避難するためには？

安全に速やかに避難できる

- ▶▶ 特別な避難経路でなく、普段利用する経路だと速やかに避難できる。
- ▶▶ 火災等の火元から離れて避難できるよう2方向以上の避難経路を確保する。

誰も取り残さない

- ▶▶ 全ての利用者に非常事態を速やかに伝達できるようにする。
- ▶▶ 視覚に障がいがある人、聴覚に障がいがある人、外国人などへの伝達に工夫が必要。
- ▶▶ 避難経路の案内表示や誘導用設備は全ての人にわかるようにする。

支援が必要な人への十分なサポート

- ▶▶ お年寄りや障がいのある人等の配慮が必要な人の避難は特にソフト面の対応と合わせて計画する。
- ▶▶ 平常時の避難計画では、配慮が必要な人への対応も考えておく。
- ▶▶ 普段からの施設職員等への教育や、施設利用者への事前の周知も必要。

ホンネ

光と文字で、命をつなぐ防災へ。

スマートフォンの普及で、災害情報の入手は以前より容易になりました。しかし、瞬時の危険を知らせる「音」は、依然として私たちには届きません。地鳴りやサイレン、切迫した叫び声が聞こえず、逃げ遅れる恐怖が常にあります。避難の道のりや、たどり着いた避難所でも、情報の壁は立ちのびています。「こっちへ逃げろ!」という誘導や、避難所内での「食料の配給です」「受付はこちら」といった重要な指示は、ほとんどが音声のみで行われるからです。周囲の動きを見て推測するしかない私たちは、集団の中で孤立します。命をつなぐためには、音声に頼らない、光や文字による「見て分かる誘導」が不可欠です。



危険を知らせるフラッシュライト

助けがないときでも、避難できそう？

- 1 急ぐと、そのことだけに気を取られ、まわりの状況がみえなくなる。
- 2 避難の選択肢が限られ、手伝ってもらわないと避難ができない。
- 3 避難する方向がわかりにくい。



こうして 解決！

柔軟性
使いやすさ
安全性

安全に速やかに避難できる

- 1 段差は、お年寄りや、障がいのある人等には通行の支障となり、特に緊急時にはより深刻な障害となるため、避難経路には段を設けないこと。
- 2 車いすの人も通れる幅のバルコニーを連続して設置する。
- 3 階段による垂直移動が困難な利用者の安全の確保に配慮し、安全に救助を待つための一時待避スペースをつくる。
- 4 避難誘導を補完するため、視覚障がい者誘導用ブロックや手すりを設置する。



避難ルートマップ

現在地から避難場所までのルートを、わかりやすく表示。外国人にもわかるよう英語を併記。



避難誘導用照明内蔵型手すり

火災時に避難方向が分かるよう、火災報知機と連動し、避難方向に向かって光が点滅するようになっている照明。(手すり下に埋め込み)

【技術的基準 参考文献】
高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計 / 16. 避難施設・設備 P188 ~

はじめに

建築物 移動空間

建築物 利用空間

道路

市街地

当事者参画

はじめに

建築物 移動空間

建築物 利用空間

道路

市街地

当事者参画

「今どうなってるか」
分かる？

- 1 日本語が理解できず、災害情報やどこに避難すれば良いのかわからず行動できない。
- 2 複雑で情報が多かったり、早口の放送では理解が難しい。
- 3 音声による避難指示が聞こえず、避難のタイミングを逃す。
- 4 周囲の状況がわからず不安で動けない。

こうして 解決！

使いやすさ
わかりやすさ

誰も取り残さない

- 1 誰もが必要な情報にアクセスできるよう、文字・音声・映像・図などさまざまな方法で災害情報を発信する。
- 2 デジタルサイネージやスマートフォンアプリ等を活用し、避難誘導等の多言語化・文字等により視覚化する。
- 3 施設や状況に応じて、外国人や障がいを持つ人の特性に配慮し、個別の対応が出来るようにしておく。
- 4 視覚に障がいがある人、聴覚に障がいがある人だけでなく、誰にとっても有効な光走行式の緊急避難時の誘導システムを設置する。

いろいろな国のことばや絵を使って、わかりやすく伝えましょう！

外国から来た人や、体に不自由がある人がたくさん使う場所では、地震や火事などのときに、みんながすぐに逃げられるように、『あぶないよ！』とすぐに知らせることが大切です。



【出典：消防庁 / 外国人来訪者や障害者等の安全な避難誘導のために。】

避難しないといけ
ないのは分かる
けど…

- 1 赤ちゃんと一緒だと荷物が多くて、避難に時間がかかってしまう。
- 2 車いすに乗ったまま移動できる避難経路が分からない。
- 3 非常時には、どう行動していいか分からなくなりそうで不安。

こうして 解決！

使いやすさ
わかりやすさ

支援が必要な人への十分なサポート

- 1 施設管理者は、円滑な災害情報の伝達や避難誘導を行うために、必要な計画を作成し、施設の従業員に対する教育・訓練を実施する。
- 2 避難経路等に関する情報を掲載したホームページやパンフレットを活用し、情報を予め周知する。
- 3 予め周辺施設や自治会等との避難時の協力体制について決めておく。



ホンネ 「やさしい日本語」を意識してみませんか？

「英語を話せば外国人とコミュニケーションがとれる」とは、なかなかいかないかもしれません。

県内を訪れる外国人観光客や岩手に住む外国人の多くがアジア（＝非英語圏）の出身です。そんなときにコミュニケーションを取るには、「やさしい日本語」が役立つかもしれません。「やさしい日本語」は、日本語を学び始めの人に伝わりやすいように配慮した日本語です。災害のときも、「避難して」を「逃げて」、「高台に避難してください」を「高いところに逃げてください」とすると、より多くの外国人に伝わります。

英語では？ 英語も同様です。非英語圏の人には、難しい英単語を使うよりも、やさしい日本語の簡単な言い回しにしたほうが伝わるでしょう。「Evacuate（避難して）」は知らなくても「Escape」や「Run away」（どちらも「逃げて」の意）なら伝わるかもしれません。非常時には、「伝える」ことを優先させた「易しい」＝「優しい」言葉選びを心がけてみてください。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計 / 16. 避難施設・設備 P188～

